



# 卓 話

## 「ドラッグストアの現状と展望」

薬のヒグチ産業㈱ 代表取締役社長

樋口 俊一氏

今回、川瀬さんから「樋口君卓話出来る」とお話をいただきお引き受けしました。昨年度東京中野ロータリークラブの会長をさせていただき、いろいろな場面でお話をする機会がありましたが、他クラブでの卓話は東京四谷ロータリーさんが初めてです。そして何よりも川瀬さんのお話をお断り出来ない理由は、川瀬さんが中野区の有権者であるということです。15年前東京都議会議員選挙に中野区から立候補し当選を果たすことが出来ましたのも川瀬さんのおかげであります。



本日の話は、ドラッグストア業界のM&Aのお話よりもこれからの一般用医薬品がどうなっていくかと言った、一消費者として話を聞いていただいたほうが良いのではないかと思います。医薬品には2種類あり、お医者さんが取り扱う医療用医薬品と、町のお薬屋さんで売られている一般用医薬品とあります。一般用医薬品は大衆薬とかOTC薬という風に使われています。OTCとはOver The Counterの略で、カウンター越しに患者さんの症状をお聞きしてお薬をお勧めするところから命名されました。海外でもOTC Drugと呼ばれています。一般用医薬品を扱うことが出来るお薬屋さんにはいくつかの許可形態があります。1つは薬局で薬剤師さんを置き調剤も扱うことができます。2つ目は一般販売業で同じく薬剤師さんを置いています但し調剤は扱えません。3つ目が薬種商で各都道府県の試験に合格した人のお店に許可されるものです。4つ目が特例販売業で山間僻地に認められたものです。最後が置き薬いわゆる配置販売です。マーケット規模は医療用医薬品が6兆円強に対し、一般用医薬品は6千億円強です。20年ほど前は一般用医薬品も1兆円ありましたが、ずっと右肩下がりです。そのような中、ドラッグストアが伸びてきましたのは、薬以外に化粧品、日用品そして他の業種で扱われていましたお米やお酒、食料品などを取り揃え、お客様のご支持を頂いてきたからだ

思います。

そのドラッグストア業界に激震が走ったのが10年前の1998年であります。その年の暮れ厚生省薬務局長が薬剤師の常駐を求める局長通知を出しました。それまで各都道府県は管理薬剤師一人を届け一定の水準を満たせば薬局薬店として許可してきました。法律上も矛盾する局長通知でありますし、現実的にも無理な内容でありました。薬事法第8条には薬剤師は実地に管理すると明記されています。その実地については第9条で、店舗における人の監督と、店舗構造や医薬品など物の管理を指しています。どこにも医薬品の相談応需や販売については言及していません。厚生省は薬剤師は20万人強いて常駐するための人数は足りているとの見解ですが、実態は製薬メーカーや病院薬局で働いている方もおられます。タンス薬剤師と呼ばれる方もいて私どもの職場で働いていた方方は少ないのが実情です。

この常駐指導が出た背景は、その1~2年前胃潰瘍の治療薬であります医療用医薬品のH2ブロッカーが一般用医薬品として認可されました。この薬が出るまで胃潰瘍は外科手術をしなければ治らなかったのですが、この薬のおかげで人の体にメスを入れなくても治るようになったのです。安全性も高くスイッチされた薬でした。しかし医師会にとっては売り上げが下がるため、リスクの高い薬が薬剤師のいない薬屋で売られることは危険であるとの考えから先の局長通知につながったのであります。

4年前、私は参議院の予算委員会で当時の坂口厚生労働大臣に対し、この点を含め将来の薬事行政に対する質疑と提案をさせていただきました。少子高齢社会に急に突入した日本の社会保障制度は抜本的改革をしなければなりません。年金然り医療もこのままですと30兆円が2025年には70兆円にもなるといわれています。国民皆保険制度を維持しながら、少しでも医療費を削減するには、一般用医薬品の見直しが必要であると訴えました。そして大臣からも海外の事情を参考に前向きに検討しますとの答弁を貰いました。その後厚生労働省の厚生科学審議会で1年半検討され、2006年に一般用医薬品販売制度改革の薬事法が成立しました。

その内容は、一般用医薬品をリスク3分類し、切れ味のある医療用医薬品からスイッチした医薬品をA類。今までの風邪薬や胃腸薬などをB類。のど飴などのリスクの低いのをC類とし、A類は薬剤師が書面を

もって情報提供し相談に応じるとなっています。また局長通知にもありました常駐については、各都道府県で一定の知識レベルがあるかを試験し、合格した者に新たな資格として登録販売者と言う薬剤師を補佐するものを創設する内容です。この登録販売者が薬剤師が常にお店にいて相談応需する体制を改正薬事法は求めています。尚、登録販売者はB類とC類を扱うことが出来るとなっています。ここで大きなことはA類の医薬

品が医療費抑制の鍵を握っていると言っても過言ではないでしょう。しかしまだその販売方法や、薬剤師、登録販売者、その他従業員の区別をどうするかなど、昨年末まで決まる予定が、C型肝炎薬害問題で時間を取られ未定の部分があります。これらは多分この春までに一定の結論が得られると思いますが、来年施行されますと約50年ぶりに町のお薬屋さんでのお薬の販売が大きく変わっていくことになります。

# 「ロータリーの心」から

## 2004年大阪国際大会－国際研究会

2004年大阪国際大会開催に先立って、2日間のロータリー国際研究会が開かれた。

国際研究会の第1日目、分科会「ロータリーの心」のスピーカーを引き受けられた成川バストガバナーは、広い国際会議場で私を探しておられた。成川さんは、日本各地から集まったバストガバナーの親しい仲間とわいわいと賑やかに話している私を見つけ、「あ！見つけた！戸田さん私が担当する分科会§ロータリーの心モに、私の話だけでは弱いので、戸田さんのマズローの話で補強してくれませんか」と、分科会が始まる直前に頼まれた。原稿も何もなかったが、「分かりました、やりましょう！」と引き受けた。

分科会が始まり、D. 2640地区の成川バストガバナーは『2度とない人生だから一輪の花にも無限の愛をそそいでいこう。一羽の鳥の声にも 無心の耳を傾けていこう』と、坂村真民さんの詩を朗読し、人生でどんなに小さいことでも大事にすることが大切です。ロータリーも同じで、小さいこと、自分でできることで人の為に尽くすことが大切なのです。ロータリーの「奉仕の理想」は成人に対する思いやりの心、助け合いの心ですが、マザー・テレサは”Giving the Love”と教えられた。この”Love” 愛は、ロータリーの心です。

21世紀は心の世紀といわれますが・・・美しい花を咲かせるには、水を丹念にやらねばなりません。人間も同じで人生の美しい花を咲かせるには丹念に自分を磨かねばなりません。ロータリーはそれを可能にするところです。ロータリークラブって、自分を磨くという大きい役割があるのです。

ロータリーは素晴らしい、これは自分がロータリークラブに入らなければ分からないことです。ロータリークラブに入ればロータリーの素晴らしさを是非知って欲しい、それには、ロータリーを理解するための努力と、学ぶ意欲をもつことが大切でありましょう。学ぶのはあくまで自分です、その為には、「自分で学ぶ、先輩に聞く、多くの会合に出席する」ことが大切でありましょう。

このようなことを、新しい会員を迎え伝えていかねばなりません。ロータリーは会員に「優しい心」を植え付けてくれるところです。ロータリーを大いに楽しみ、その素晴らしさを知って欲しいものです。

成川バストガバナーの「ロータリーの心」の話は参加者の心を打つ素晴らしいものであった。次は私の番である。私たちは、新しい会員を迎えるためにも「ロータリーとは何か」を明確に説明する必要があります。また、ロータリアンにもその認識を深めることが大切です。そのために、国際ロータリーは、「ロータリー真の姿委員会」を設置し、議論と検討を重ねてその結論を出したのです。

そして、ロータリーの真の姿とは、”Ess”で表される、

と発表しました。

E・S・SのEはEnjoy（楽しむ）・・・毎週の例会で地域の職業を代表する会員どうしが信頼感を高めながら心から楽しむ。

Sはstudy（学ぶ）・・・ロータリーから人生哲学、職業倫理を学び、多くの会員から学び、自己を研鋒し、人間性を高める。

Sはservice（奉仕する）・・・「思いやりの心で人のお役に立つ行動を」というロータリーの奉仕をごく自然に自分の生活の中に活かし、世の為、人の為に尽くす。

これが、ロータリーの真の姿である、と発表されました。

私は、ずっと以前に読んだ世界的な心理学者、アブラハム・Hマズロー博士の「人間の真の満足は、欲求を充たすこと無くしては得られない」と主張し「人間の欲求5段階説」を唱えた。

### 5段階説の低字の欲求から

第一段階 生理的欲求・・・食べたい、飲みたい、眠りたいという欲求。

第二段階 安全の欲求・・・生活環境のあらゆる危険を防ぎ、安全に生活したいという欲求。

第三段階 親和の欲求・・・集団の中で円満な関係を築き、親しい関係を深めたいという欲求。

第四段階 尊敬の欲求・・・集団の中で人のお役に立ち、尊敬されるような自分を目指したいという自己完成の欲求。

第五段階 自己実現の欲求・・・自分の理想、目的を達成し、例えば、自己を越えて他人の為に尽くす、という人間を本質的価値まで高めたいという自己実現の欲求。

茲で、アブラハム・H・マズローの説とロータリーの真の姿とを比較して共通点を探ると、マズローの高度の欲求と言われる第三段階の親和の欲求、第四段階の尊敬の欲求、第五段階の自己実現の欲求と、ロータリーの真の姿とがほとんど一致していることに気づくであろう。

ロータリーの真の姿、Enjoy Study Serviceは、私たちロータリークラブ会員が、互いに磨き合い、楽しみ、学び、奉仕することが、人間の真の満足を充たす道になるのではないかと。ロータリークラブは、会員が、お互いに相手を思いやり、相手のお役にたとうとする心をもって親しみ、そこから生まれる人間的温かさの空気を共有することで「良き人たちを作る」ことになるのだ。

アメリカの推理作家レイモンド・チャンドラーは、彼の作品の中で主人公に「男は強くなければ生きていけない、然し男は優しくなければ生きる資格がない」と語らせている。男は、自分と家族が安心して生活できるように、又将来のためにも強くならなければ生きていけないことは誰にも分かるが、男は、常に他人への思いやりの心、助け合いの心を身につけることが大切であり、その結果として他人に認められ、信頼されて人間としてのモ生きる資格モが与えられるのであろう。ロータリーは、人間の優しさを磨き、成長を促すところともいえるのではないかと。